

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2017年8月実績 速報版(パネル270)

7月実績 確報版(パネル270)

(2017年9月21日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m<sup>2</sup>あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年9月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2017年8月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	92,542,317	100.0%	101.3%	99.8%
食品合計	83,240,915	89.9%	101.5%	99.9%
生鮮3部門合計	30,910,312	33.4%	101.5%	99.8%
青果	12,746,410	13.8%	99.8%	98.2%
水産	7,948,066	8.6%	100.7%	98.9%
畜産	10,215,836	11.0%	104.4%	102.5%
惣菜	9,930,974	10.7%	102.6%	100.4%
日配	17,771,252	19.2%	101.2%	100.1%
一般食品	24,628,377	26.6%	101.2%	99.9%
非食品	6,714,092	7.3%	99.7%	99.3%
その他	2,587,354	2.8%	98.1%	98.7%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,410,842	43	101.1%	99.8%
関東地方	33,063,013	73	101.8%	100.7%
中部地方	11,741,209	53	102.0%	100.3%
近畿地方	19,927,674	44	100.6%	99.5%
中国・四国地方	9,375,734	34	100.6%	98.0%
九州・沖縄地方	5,023,844	23	99.8%	98.2%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	814,018	47	98.1%	98.1%
4~10店舗	3,920,153	68	100.6%	99.0%
11~25店舗	10,874,279	66	101.3%	99.3%
26~50店舗	17,588,722	46	101.3%	99.6%
51店舗以上	59,345,145	43	101.3%	100.1%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	90,168,604	
総店舗数 (店舗)	7,784	店舗平均月商 (万円)	11,889	
総売場面積 (㎡)	12,884,931	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.2	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年9月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2017年7月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	89,635,251	100.0%	100.9%	99.6%
食品合計	80,186,863	89.5%	101.3%	99.9%
生鮮3部門合計	29,340,630	32.7%	99.8%	98.2%
青果	11,655,248	13.0%	98.2%	96.8%
水産	7,829,245	8.7%	97.7%	96.1%
畜産	9,856,137	11.0%	103.5%	101.8%
惣菜	9,122,706	10.2%	102.7%	100.5%
日配	17,647,737	19.7%	102.4%	101.4%
一般食品	24,075,790	26.9%	101.9%	100.7%
非食品	6,837,399	7.6%	99.2%	99.0%
その他	2,611,034	2.9%	96.7%	97.3%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,552,236	43	101.7%	100.6%
関東地方	33,385,441	73	101.8%	100.9%
中部地方	10,990,726	53	100.6%	99.0%
近畿地方	18,945,536	44	99.7%	98.6%
中国・四国地方	8,971,948	34	99.6%	97.1%
九州・沖縄地方	4,789,364	23	100.1%	99.4%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	750,656	47	96.6%	96.6%
4~10店舗	3,706,374	68	99.9%	98.2%
11~25店舗	10,449,682	66	99.9%	98.7%
26~50店舗	16,734,420	46	100.1%	98.6%
51店舗以上	57,994,119	43	101.4%	100.3%

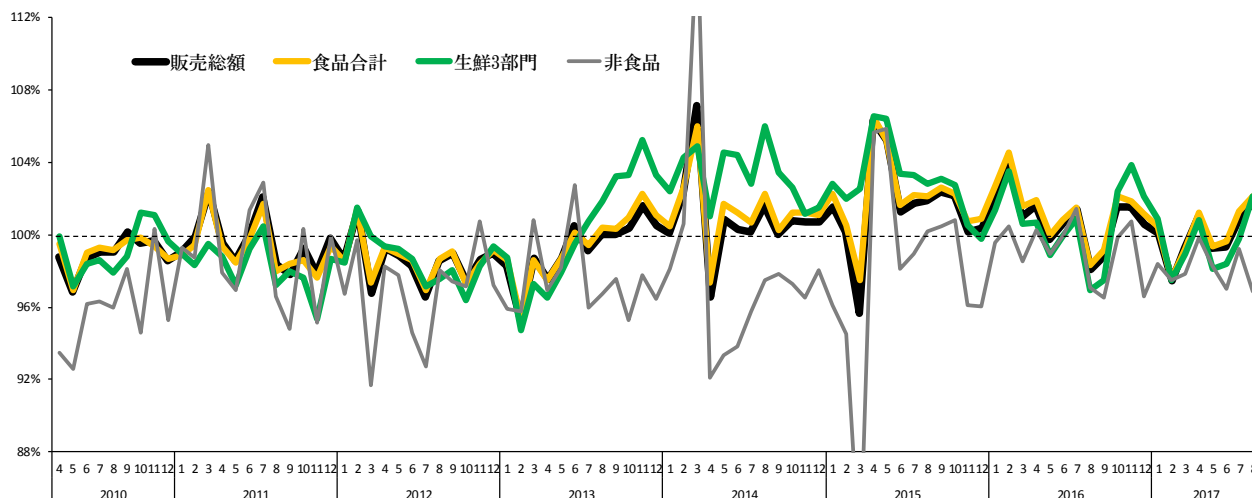
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	87,317,462
総店舗数 (店舗)	7,786	店舗平均月商 (万円)	11,512
総売場面積 (㎡)	12,860,190	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0

※売上高は税抜金額

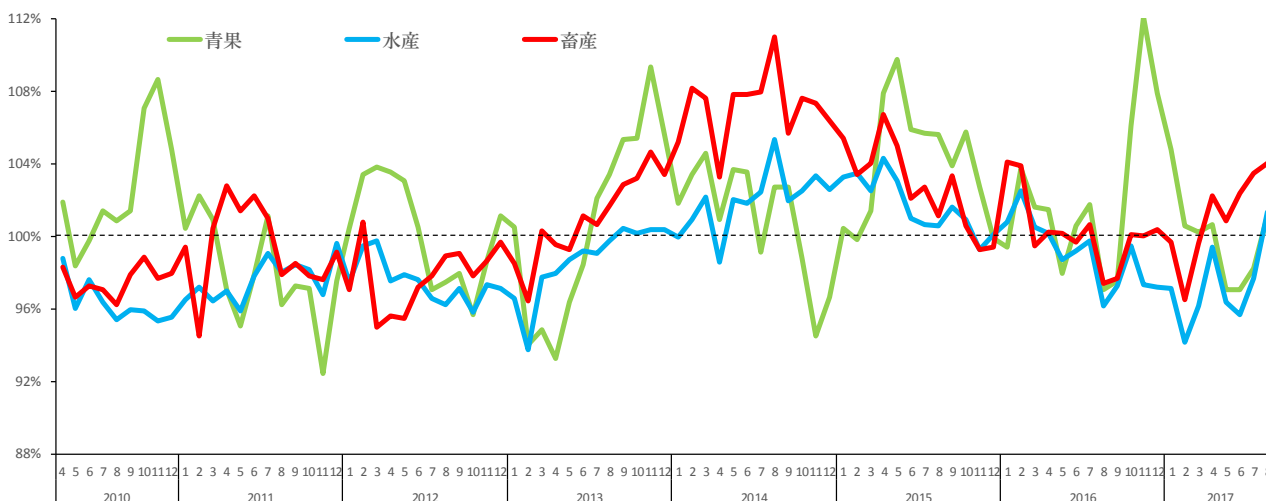
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

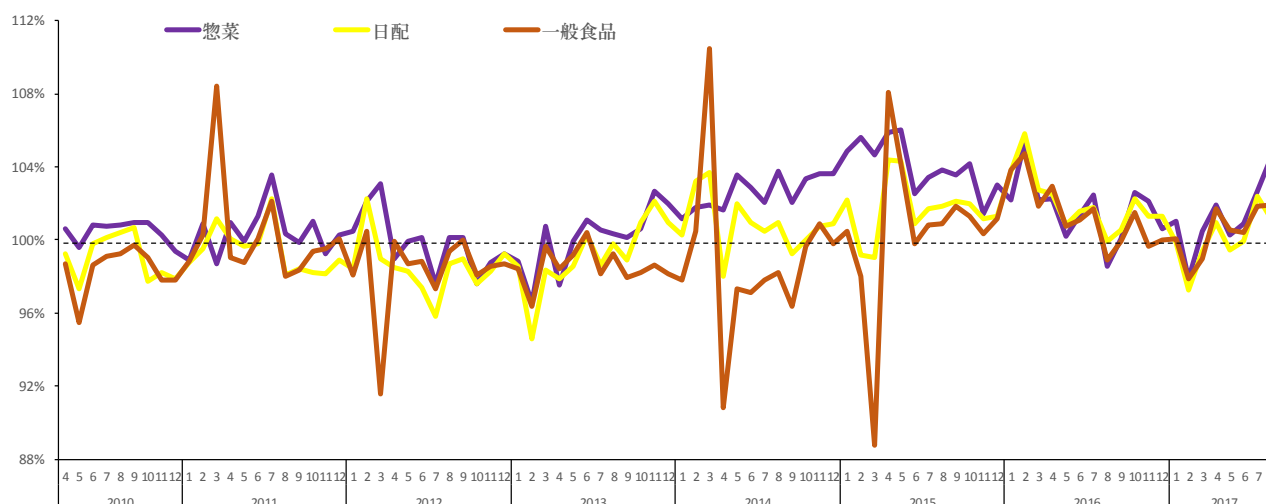
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年7月までは確報版による前年同月比、2017年8月は速報版による前年同月比

## 2017年8月エリア別気候状況

### 1. 月の気温：西日本で高く、北・東日本では平年並だった

上旬：西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・東日本で平年並だった。

中旬：沖縄・奄美でかなり高かった。一方、北・東日本で低く、西日本で平年並だった。

下旬：沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。北日本で平年並だった。

2016年8月との比較：北日本を中心に前年よりかなり低く、中旬は全国的に低くなった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2017年8月			2016年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-1.0	-2.1	0.2	2.0	1.8	1.7	-3.0	-3.9	-1.5
東北地方	-0.8	-2.0	-0.2	1.8	0.7	0.9	-2.6	-2.7	-1.1
関東甲信地方	0.2	-1.2	1.0	1.3	0.4	0.0	-1.1	-1.6	1.0
北陸地方	0.7	-0.9	0.3	0.4	0.5	0.3	0.3	-1.4	0.0
東海地方	0.6	-0.4	1.5	1.3	0.8	0.5	-0.7	-1.2	1.0
近畿地方	0.8	-0.2	1.1	1.0	1.0	0.3	-0.2	-1.2	0.8
中国地方	1.2	-0.7	1.1	0.8	1.0	-0.2	0.4	-1.7	1.3
四国地方	1.2	0.7	1.4	1.0	1.7	0.7	0.2	-1.0	0.7
九州北部	1.8	0.2	1.2	1.3	2.1	0.3	0.5	-1.9	0.9
九州南部・奄美地方	1.5	1.0	1.4	0.5	1.6	0.7	1.0	-0.6	0.7

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

### 2. 月の日照時間：北・東日本太平洋側ではオホーツク海高気圧の影響で日照時間がかなり少なかった

上旬：北日本日本海側で多かった。一方、北日本太平洋側でかなり少なく、東・西日本太平洋側で少なかった。

中旬：西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。一方、北・東日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった。

下旬：西日本と沖縄・奄美で多かった。一方、北日本日本海側で少なく、北日本太平洋側と東日本で平年並だった。

2016年8月との比較：上旬から中旬にかけて全国的にかなり少ない日照時間となった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年8月			2016年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	61	66	106	150	113	103	-89	-47	3
東北地方	82	32	76	136	133	101	-54	-101	-25
関東甲信地方	64	38	88	124	85	80	-60	-47	8
北陸地方	107	58	91	134	118	99	-27	-60	-8
東海地方	78	60	111	143	102	99	-65	-42	12
近畿地方	92	89	111	138	126	103	-46	-37	8
中国地方	102	83	120	137	137	96	-35	-54	24
四国地方	85	117	116	130	144	115	-45	-27	1
九州北部	97	115	129	130	159	119	-33	-44	10
九州南部・奄美地方	76	132	121	101	152	118	-25	-20	3

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

### 3. 月の降水量：東日本日本海側では降水量がかなり多かった

上旬：北日本日本海側で少なかった。一方、東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本で多かった。

中旬：沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。

下旬：東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。

2016年8月との比較：上旬から中旬にかけて東日本で多い降水量となったが、下旬は全国的に少ない降水量となった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年8月			2016年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	18	85	92	93	332	214	-75	-247	-122
東北地方	95	135	117	56	260	242	39	-125	-125
関東甲信地方	117	164	33	105	149	279	12	15	-246
北陸地方	274	102	201	42	66	165	232	36	36
東海地方	204	110	36	42	39	172	162	71	-136
近畿地方	290	94	28	8	53	237	282	41	-209
中国地方	213	158	36	9	83	238	204	75	-202
四国地方	259	41	40	22	26	128	237	15	-88
九州北部	47	132	60	31	17	91	16	115	-31
九州南部・奄美地方	224	31	48	72	4	40	152	27	8

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「8月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

# スーパーマーケット景気動向調査

2017年9月調査結果（8月実績）  
（2017年9月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会  
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

## 9月調査（8月実績）結果概況

### 景気判断DIは現状・見通し判断ともに2か月続けてわずかに改善

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から+1.4の45.6、見通し判断も前月から+0.2の42.3となり、ともに2か月連続でわずかな改善となった。

経営動向調査では、売上高DIが-7.6、収益DIは-7.4とともに前月に比べて上昇した。月後半の青果相場の上昇や畜産相場の高値により生鮮品仕入価格DIが7.3と上昇したことで、販売価格DIが3.1とプラス圏まで上昇、客単価DIもわずかながらプラスとなった。二桁のマイナスが続いていた来客数DIも-8.9とやや回復したことも追い風になった。

カテゴリー動向調査では、畜産と惣菜DIのみプラスであったが、単価が下げ止まった青果DIや寄生虫アニサキス報道の影響は残るものの、土用二の丑によりうなぎが好調であった水産DIではややマイナス幅を縮小した。日照不足や前年からの気温差の影響を心配された日配や一般食品DIには大きな落ち込みがみられなかった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、総じて前月から変化はみられなかったが、わずかながら2か月連続で改善するなど底堅さも見られるようになっている。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

景気判断では、現状判断に比べ見通し判断の低迷が続いている。今月、客単価と来客数のDIがともにマイナスとなることは回避されたが、これが一時的ではなく、継続的に客単価増や客数増を生み出す構造的な変化への実感が、見通し判断の低迷に大きく影響しているとみられる。8月は記録的な日照不足など異常気象が相次いだ。消費者ニーズの変化に素早く対応し、その悪影響を緩和する取り組みが多くみられた。この対応力を武器に今後見通し判断の改善が続くことに期待したい。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月：45.6 (+1.4) 前月：44.2	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：44.9 (-0.3) 前月：45.2	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：41.4 (±0) 前月：41.4	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：46.1 (-0.5) 前月：46.6
--	---	---	---

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月：42.3 (+0.2) 前月：42.1	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：42.3 (-1.5) 前月：43.8	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：39.5 (+0.3) 前月：39.2	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：45.4 (-0.2) 前月：45.6
--	---	---	---

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月：-7.6 (+4.5) 前月：-12.1	<b>客単価DI</b> 当月：0.3 (+1.7) 前月：-1.4	<b>来客数DI</b> 当月：-8.9 (+4.7) 前月：-13.6	
<b>収益DI</b> 当月：-7.4 (+3.1) 前月：-10.5	<b>販売価格DI</b> 当月：3.1 (+5.9) 前月：-2.8	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月：7.3 (+8.6) 前月：-1.3	<b>食品仕入原価DI</b> 当月：3.7 (+1.8) 前月：1.9

#### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月：-13.0 (+6.5) 前月：-19.5	<b>水産DI</b> 当月：-10.8 (+9.2) 前月：-20.0	<b>畜産DI</b> 当月：4.2 (+3.4) 前月：0.8	
<b>惣菜DI</b> 当月：0.7 (+1.5) 前月：-0.8	<b>日配DI</b> 当月：-4.7 (-2.9) 前月：-1.8	<b>一般食品DI</b> 当月：-5.7 (-0.6) 前月：-5.1	<b>非食品DI</b> 当月：-10.5 (-0.1) 前月：-10.4

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

## 9月調査（8月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

### 1. 売上高DI

当月やや上昇もマイナス圏での低迷が続く

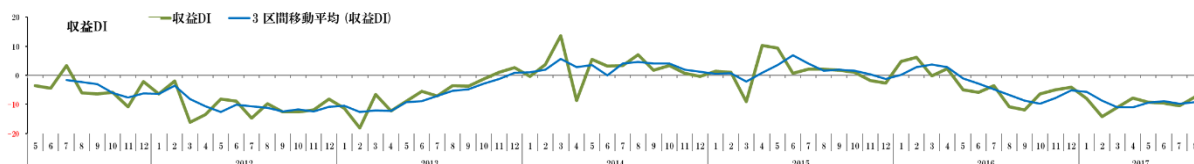
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	10.2	45.9	26.5	16.8	0.5	-12.1
売上高（当月）	8.9	35.6	34.4	19.4	1.7	-7.6



### 2. 収益DI

当月やや上昇もマイナス圏での低迷が続く

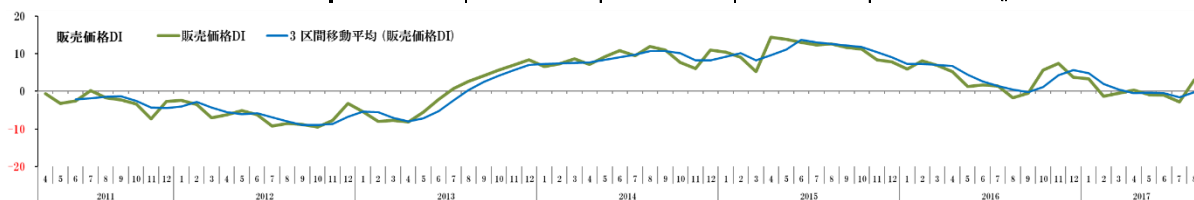
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	10.9	39.4	32.1	16.1	1.6	-10.5
収益（当月）	8.0	36.4	35.8	17.0	2.8	-7.4



### 3. 販売価格DI

2017年4月以来4か月ぶりにプラス転換

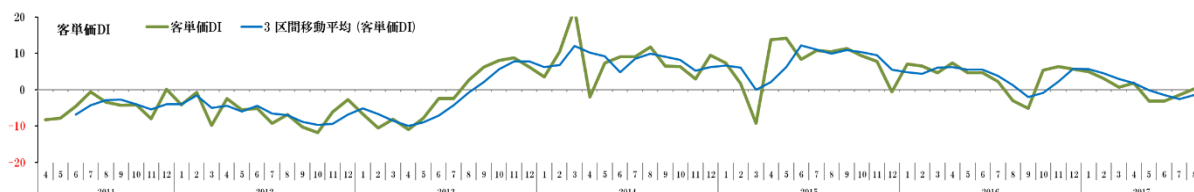
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.5	21.8	62.9	13.7	0.0	-2.8
販売価格（当月）	0.0	10.6	66.7	22.8	0.0	3.1



### 4. 客単価DI

わずかながら2017年4月以来4か月ぶりにプラス転換

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.0	23.4	55.8	19.8	0.0	-1.4
客単価（当月）	0.6	23.3	50.6	25.6	0.0	0.3

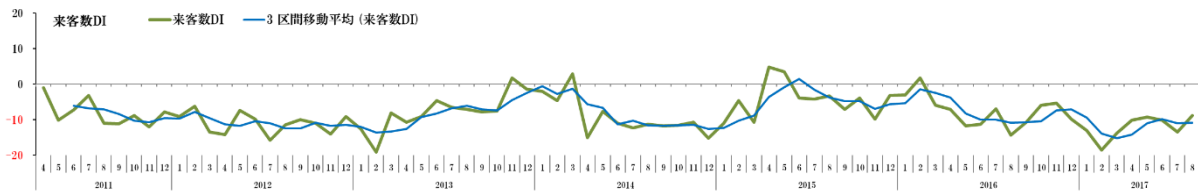




## 5. 来客数 DI

当月やや上昇もマイナス圏での低迷が続く

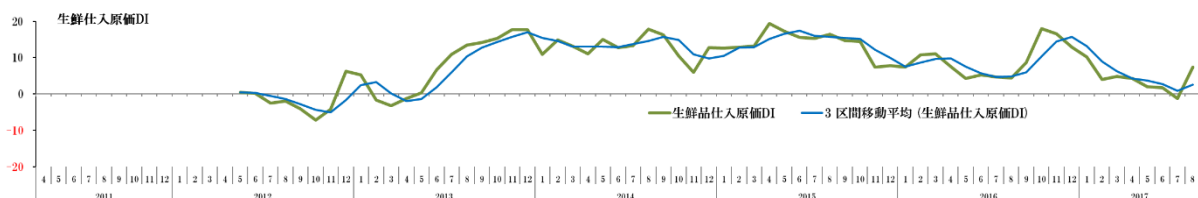
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.6	48.2	28.9	13.2	0.0	-13.6
<b>来客数 (当月)</b>	<b>7.3</b>	<b>37.4</b>	<b>39.7</b>	<b>15.1</b>	<b>0.6</b>	<b>-8.9</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

前月マイナスから再びプラス圏に上昇

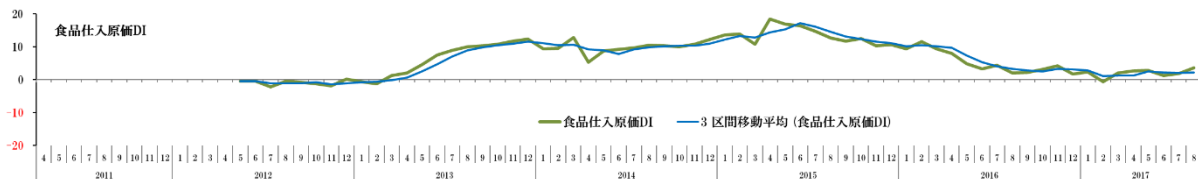
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	4.7	21.8	49.2	22.8	1.6	-1.3
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>1.7</b>	<b>7.9</b>	<b>52.0</b>	<b>36.2</b>	<b>2.3</b>	<b>7.3</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

わずかにプラス圏を維持し、横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.5	10.3	67.7	20.0	0.5	1.9
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>1.7</b>	<b>5.1</b>	<b>71.3</b>	<b>20.8</b>	<b>1.1</b>	<b>3.7</b>

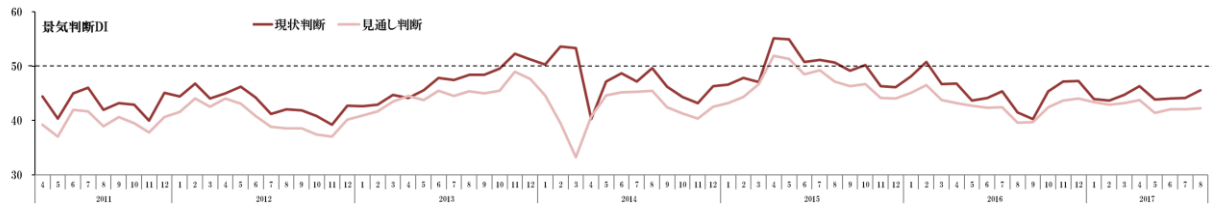


## II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

### 1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は改善も、見通し判断は横ばい

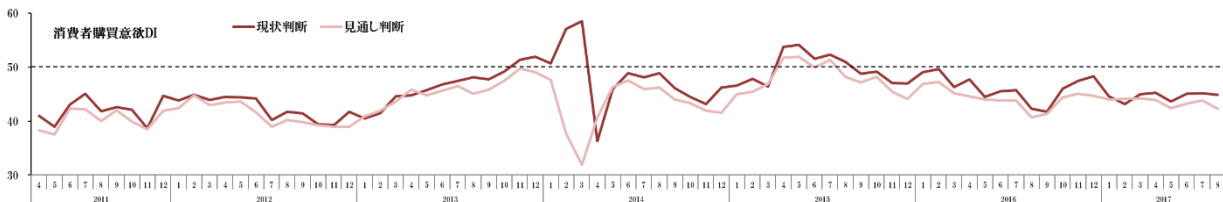
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.5	27.4	64.0	7.1	0.0	44.2
<b>【現状】景気判断 (当月)</b>	<b>0.6</b>	<b>24.9</b>	<b>66.3</b>	<b>8.3</b>	<b>0.0</b>	<b>45.6</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.6	31.8	60.5	5.1	0.0	42.1
<b>【見通し】景気判断 (当月)</b>	<b>1.7</b>	<b>32.0</b>	<b>61.9</b>	<b>4.4</b>	<b>0.0</b>	<b>42.3</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状・見通し判断共に小幅に悪化

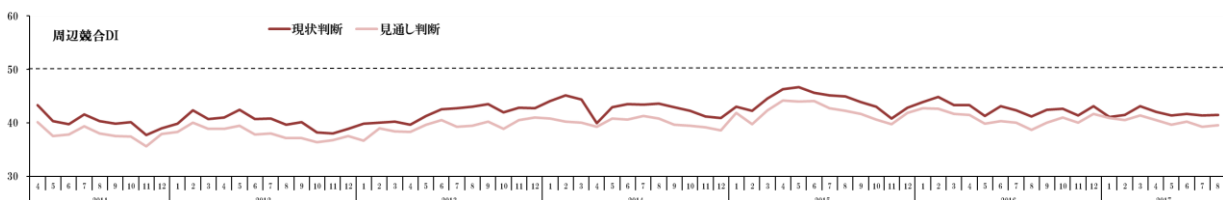
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.0	23.5	69.4	6.1	0.0	45.2
<b>【現状】購買意欲 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>26.5</b>	<b>67.4</b>	<b>6.1</b>	<b>0.0</b>	<b>44.9</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.5	26.2	67.7	4.6	0.0	43.8
<b>【見通し】購買意欲 (当月)</b>	<b>1.1</b>	<b>30.4</b>	<b>66.9</b>	<b>1.7</b>	<b>0.0</b>	<b>42.3</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断とも大きな変化はみられず

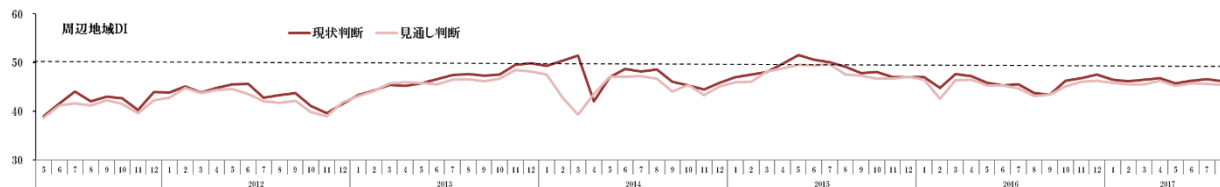
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.6	28.9	62.9	3.6	0.0	41.4
<b>【現状】競合状況 (当月)</b>	<b>3.9</b>	<b>30.4</b>	<b>61.9</b>	<b>3.9</b>	<b>0.0</b>	<b>41.4</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.7	31.3	60.5	1.5	0.0	39.2
<b>【見通し】競合状況 (当月)</b>	<b>5.0</b>	<b>34.8</b>	<b>57.5</b>	<b>2.8</b>	<b>0.0</b>	<b>39.5</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

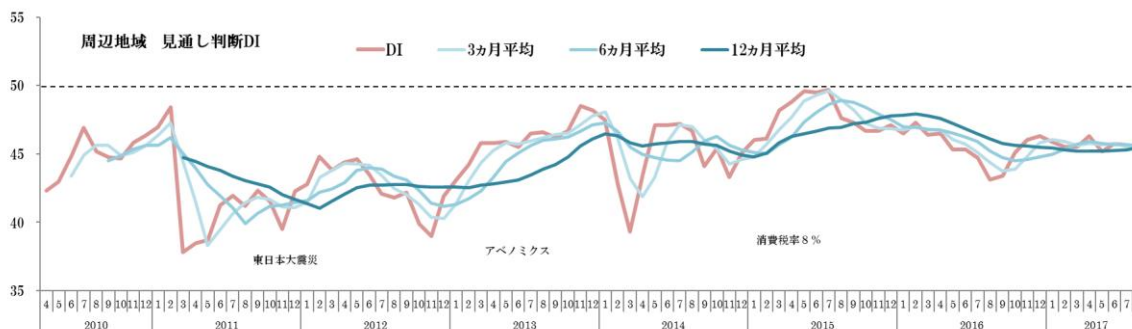
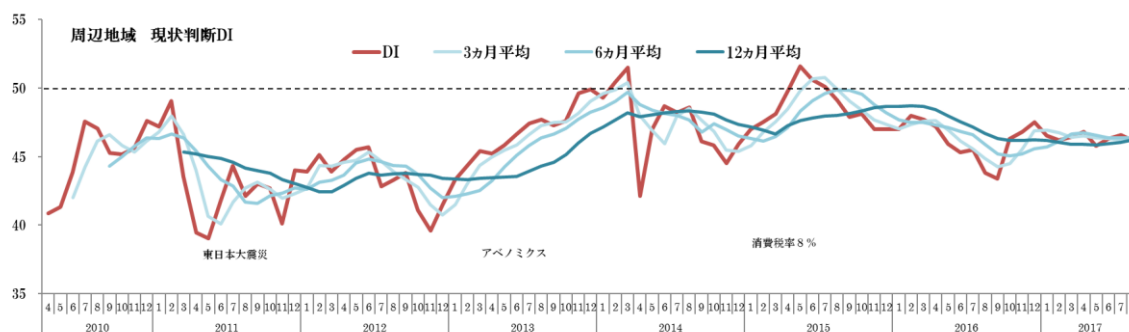
現状・見通し判断共に小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	16.2	81.2	2.5	0.0	46.6
【現状】地域景気 (当月)	0.0	17.1	81.2	1.7	0.0	46.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	19.0	77.9	2.6	0.0	45.6
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	18.2	80.1	1.1	0.0	45.4



#### 長期傾向 (2010年4月～)

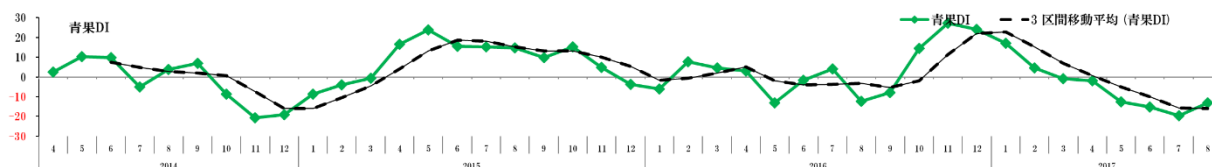
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、方向感なく横ばい推移が継続し、直近は12ヵ月移動線付近で下げ止まっている。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-13.0（不調）

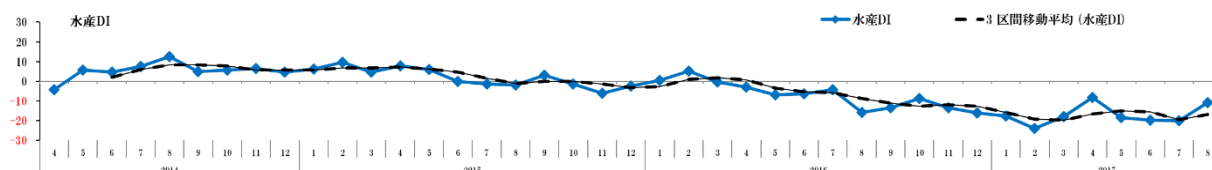
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	20.8	47.5	21.3	9.8	0.5	-19.5
<b>青果（当月）</b>	<b>19.3</b>	<b>32.7</b>	<b>31.0</b>	<b>14.6</b>	<b>2.3</b>	<b>-13.0</b>



月の前半は前月からの相場安に加え、前年天候不良で高騰していた北海道産イモ類やたまねぎが豊作により相場安となった影響を受け単価が下落し、売り上げが伸び悩んだ。トマトやキュウリなどのサラダ関連は好調となり、月後半は相場高になったことも追い風となった。果物は出荷の遅れた桃やぶどうが好調となった一方で、気温が低かった地域ではスイカやメロン、梨が不調とされた。カットフルーツの販売に力をいれており、好調となっている。

#### 2. 水産DI：-10.8（不調）

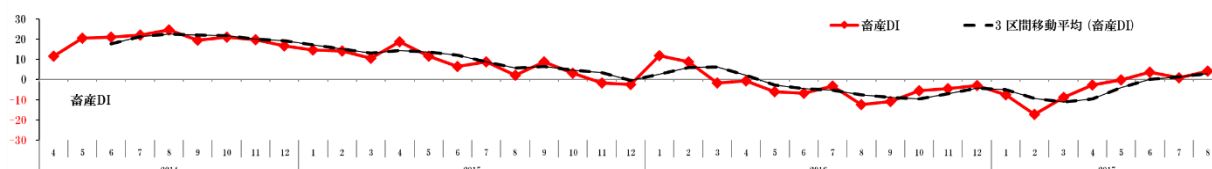
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	17.3	55.1	18.4	8.6	0.5	-20.0
<b>水産（当月）</b>	<b>12.1</b>	<b>39.3</b>	<b>31.2</b>	<b>14.5</b>	<b>2.9</b>	<b>-10.8</b>



土用二の丑があったことや、前年より相場安となったうなぎが国産、中国産問わず好調となった。生魚、刺身などが引き続きアニサキス報道による影響を受けているものの、お盆期間は前年並みとなった店舗が多かった。中旬以降売り込みを強化したサンマは価格高騰もあり、前年に比べ好調となっているほか、気温の影響を受け、焼き物類や煮物用が比較的好調となった地域もみられた。価格が高騰するマグロは好不調がわかれた。入荷が不安定な生魚を冷凍に切り替える店舗がみられる。

#### 3. 畜産DI：4.2（やや好調）

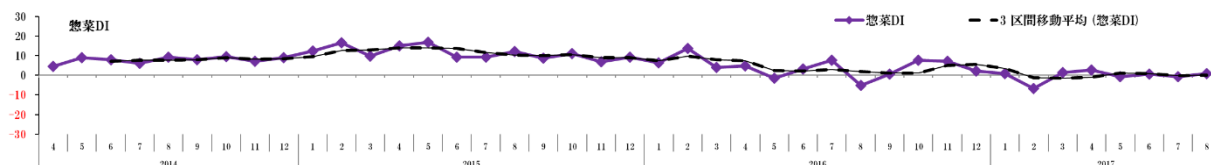
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.9	26.1	35.3	28.3	5.4	0.8
<b>畜産（当月）</b>	<b>5.2</b>	<b>19.7</b>	<b>34.1</b>	<b>35.3</b>	<b>5.8</b>	<b>4.2</b>



ステーキや焼肉用の牛肉が好調となった。輸入牛を中心に好調ではあるが、お盆時期は和牛やブランド牛の動きがよかった。豚肉は国産が相場高で伸び悩んだが冷シャブ用の動きはよかった。一方で価格上昇による数量減や輸入豚への需要のシフトにより伸び悩んだ店舗もみられた。鶏肉は国産で相場高の影響を受け好不調の判断がわかれている。加工肉は総じて不調とする店舗が多い。引き続き海産物からの需要シフトの指摘がみられた。

#### 4. 惣菜DI：0.7（やや好調）

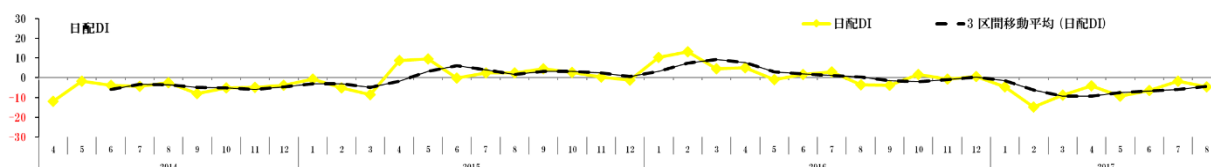
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.9	27.5	37.4	26.4	3.8	-0.8
<b>惣菜（当月）</b>	<b>4.7</b>	<b>23.5</b>	<b>40.0</b>	<b>27.6</b>	<b>4.1</b>	<b>0.7</b>



天候不順だった地域では、レジャー需要の減少や商品の売り筋が変化する影響があった。アニサキス報道の影響で寿司類や O157 の発生でサラダ類には影響がみられた。土用二の丑日にはうなぎ関連惣菜が好調となったが、お盆期間は、分散傾向が強まり伸び悩んだ。涼味商材は好不調まちまちとなっているが、前年との気温差が大きかった地域では、てんぷらや揚げ物は好調となった。

#### 5. 日配DI：-4.7（やや不調）

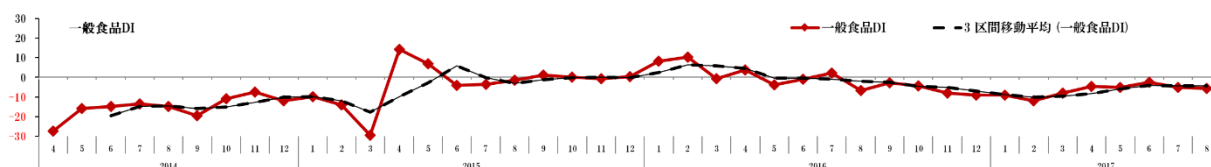
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	4.4	30.1	36.1	27.3	2.2	-1.8
<b>日配（当月）</b>	<b>7.1</b>	<b>29.4</b>	<b>40.0</b>	<b>22.4</b>	<b>1.2</b>	<b>-4.7</b>



前年との気温差が大きかった地域では、アイスの落ち込みが大きかった。涼味商材であるチルド飲料、麺類、豆腐、ところんなども不調となった。一方で、夏休み需要として冷凍食品や、パン類が好調となっており、関連してバターやチーズの動きがよかったとするコメントがみられた。月後半からおでん商材を売り込んだ店舗も多くみられた。甘酒や豆乳が引き続き好調となっている。

#### 6. 一般食品：-5.7（やや不調）

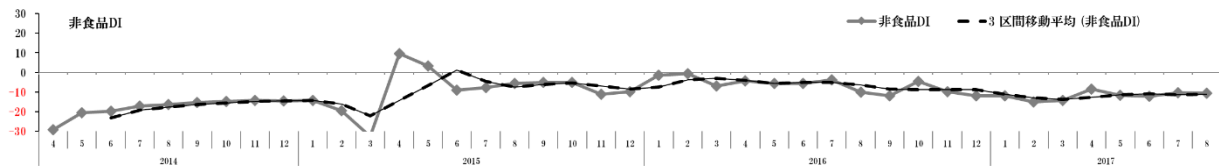
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.9	31.4	41.1	20.5	1.1	-5.1
<b>一般食品（当月）</b>	<b>7.0</b>	<b>32.7</b>	<b>37.4</b>	<b>21.6</b>	<b>1.2</b>	<b>-5.7</b>



前年との気温差が大きかった地域では、乾麺などの夏物商材、飲料やアルコール類の落ち込みが大きかった。夏休み需要でインスタント麺、単価が上昇傾向にある米類は好調とする店舗が多い。菓子類はスナック類やチョコレートが好調となっている。競合との価格競争を指摘するコメントが多くみられた。

## 7. 非食品 DI：-10.5（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	15.6	27.8	42.2	11.7	2.8	-10.4
非食品（当月）	10.8	35.9	39.5	12.0	1.8	-10.5



前年との気温差により夏物商材（制汗剤や日焼け止めなど）の動きが悪いが、ヒアリ報道などで殺虫剤が好調となった店舗もみられた。天候不順により花火類、前月に続いたばこや紙製品などは不調となった。ホームセンター、ドラッグストアとの価格競争の影響を指摘するコメントが多い。

### カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20      好調：20 ～ 10      やや好調：10 ～ 0  
 やや不調：0 ～ -10      不調：-10 ～ -20      かなり不調：-20～

### 2017年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. 夏物商材不振（前年との気温差、猛暑日減少）
2. 天候要因（日照不足、降水量が多い）
3. お盆期間の変化（山の日の影響）

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 181社  
 7月実績確報版 197社

### スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)